

9. 腫瘍マーカー CA 72-4 キットの使用経験

金森 勇雄 古川 雅一 樋口ちづ子
 奥村 恭巳 竹島 賢治
 (大垣市民病院・放技)
 中野 哲 武田 功 熊田 卓
 杉山 恵一 長田 敏正 (同・消化)

卵巣癌に特異性が高いとされる CA 72-4 IRMA キット (セントコーア社) の検討を行った。

1) 基礎的検討で、標準曲線の再現性、同時および日差再現性、回収試験、希釈試験等はいずれもほぼ満足すべき結果が得られた。

2) 本法と SLX, BFP との相関は認められないが、CA-125 との間には $r=0.671$ ($p<0.01$) の相関関係が認められた。

3) 卵巣癌での特異性 (対照群, 卵巣良性腫瘍) は 66.7% (16/24), 感度は 92.3% (24/26) であった。

4) 本法は CA-125 に比し、卵巣癌で僅かに特異性に優れるが、感度は劣る傾向が同えた。

今後はさらに症例を重ね、各種腫瘍関連マーカーの比較検討を行なう必要があると考える。

10. 肩関節への ^{67}Ga の集積の評価—— $^{99\text{m}}\text{Tc-MDP}$ との対比——

小林 英敏 田中 孝二
 (岐阜県立多治見病院・放)
 佐久間貞行 (名古屋大・放医)

臨床で肩関節に腫瘍所見のない 865 症例, 1,078 検査を対象として ^{67}Ga の肩関節およびその周囲への集積を左右で比較し、集積部位および集積部位の変化について検討した。約 50% の症例で左右差はなかった。約 40% は右側に、約 10% は左側に集積の亢進が認められた。2 回以上 ^{67}Ga シンチグラフィを施行した症例のうち約 30% の症例は経過中に左右差に変化が見られた。 $^{99\text{m}}\text{Tc-MDP}$ の集積と比較したとき、 ^{67}Ga の集積亢進はより広範囲であり、軟部組織の描出は優れていた。 $^{99\text{m}}\text{Tc-MDP}$ の集積は ^{67}Ga の中央部に認められた。 ^{67}Ga と $^{99\text{m}}\text{Tc-MDP}$ の集積亢進例は 72% で一致し、両者の集積機序には同じ factor が関与しているものと考えられた。

11. 骨髄シンチにおける骨髄描出の定量化の試み

——MR イメージ, 骨髄有核細胞数との比較検討——

岩崎 俊子 中島 鉄夫 外山 貴史
 杉本 勝也 小島 輝男 石井 靖
 (福井医大・放)
 岩崎 博道 中村 徹 (同・一内)

骨髄病態把握に MRI が利用されるようになった一方、全身骨髄の把握には骨髄シンチが有用である。われわれは骨髄シンチにおける定量化の試みとして骨盤に ROI を設定し、肝臓および軟部組織との比 (骨盤カウント比) をとった。骨盤カント比と有核細胞数 (NCC) との対応も検討した。また骨盤部の横断 MRI (T_1 , STIR) を撮像し、骨盤信号と筋肉信号の比をとり、NCC と比較した。NCC の増加に伴い骨盤カウント比は増加する傾向を示した。MRI, T_1 WI では NCC 増加に伴い信号強度比が低下し、STIR では信号強度比が増加する傾向が得られた。画像による NCC 推測の可能性が示唆された。

12. $^{99\text{m}}\text{Tc-HM-PAO}$ 標識白血球イメージングの臨床応用

油野 民雄 滝 淳一
 Karayalcin Binnur 横山 邦彦
 利波 紀久 久田 欣一 (金沢大・核)
 寺田 一志 (東邦大大橋・放)

脳血流薬剤である $^{99\text{m}}\text{Tc-HM-PAO}$ を白血球標識に用い、炎症および骨・骨髄疾患の評価を試みた。 $^{99\text{m}}\text{Tc-HM-PAO}$ と白血球の標識率は 60-65% であるために、遠心して遊離の $^{99\text{m}}\text{Tc-HM-PAO}$ を除いた $^{99\text{m}}\text{Tc-HM-PAO}$ 標識白血球を患者に投与した。患者投与後の recovery rate は、静注 5 分後で 35-45%、120 分後で 25-30% の結果が得られた。炎症および骨・骨髄疾患 55 例で $^{99\text{m}}\text{Tc-HM-PAO}$ 標識白血球シンチグラフィを施行したが、炎症疾患では $^{67}\text{Ga-citrate}$ シンチグラフィ、骨・骨髄疾患では骨シンチグラフィ、または $^{111}\text{InCl}_3$ 骨髄シンチグラフィと対比しながら臨床的有用性の検討を試みた。